

産業技術委員会



3月2日(水) 広島市において、菅蒲田委員長をはじめ約80名の出席のもと、2021年度産業技術委員会を開催しました。

当日は、OZCaF (OSAKAゼロカーボンファウンデーション) 代表理事 田中靖訓氏によるご講演の後、当委員会の2021年度事業報告案および2022年度事業計画案を審議し、原案どおり承認されました。ここでは、講演の概要を紹介します。

【講演要旨】

「リマテックグループの脱炭素経営に関する取組みとOZCaFの取組み」

OZCaF (OSAKAゼロカーボンファウンデーション)
代表理事
リマテックホールディングス株式会社
代表取締役社長
田中 靖訓 氏



■リマテックグループの概要

リマテックグループは、水産業をルーツとし、「海を守る」をキーコンセプトに、漁業、環境・エネルギー事業、海洋土木事業、海上輸送事業等を展開している。

技術をコアに、資源循環や脱炭素化といった社会課題に対応するイノベーションを創出することをミッションにしている。

■脱炭素化は大転換時代

欧州は、「気候正義」という脱炭素を正義として、各国に対し取組む姿勢を求めており、日本も取組まざるを得ない状況である。

企業は、自社だけでなくサプライチェーン全体の取組みが求められており、経営資源を投入していく必要がある。

大きな投資とコストがかかることから、各社の対応は様々だが、当社は、リスクとチャンス进行评估し準備を整えて、実行のタイミングを伺うこととしている。

■中小企業のSDGsへの取組みを支援するツール「環進帳」の展開 ～コスト削減とCO₂排出量削減の両立～

脱炭素化は、SDGsの様々な項目と繋がっているため、リマテックグループでは、経営活動(エネルギー利用、購入、生産、廃棄など)の勘定科目から、CO₂排出量を算出し可視化するツール「環進帳」を開発した。

企業等の会計情報から、容易に環境コストを分析・評価できるとともに、経営コスト削減の検討もできる。

このツールは、次のリンク先から、無料で利用できるの、活用いただきたい。

<https://bct2050.com/sustainability/>



【CO₂排出量の可視化ツール「環進帳」のイメージ】
(出典：産業技術委員会資料)

■産学官民による脱炭素社会への挑戦～OSAKAゼロカーボンファウンデーションの設立～

ゼロカーボンの取組みは、産学官民連携が不可欠であるため、多様な立場の関係者から構成される「OSAKAゼロカーボンファウンデーション」(略称：OZCaF)を2021年7月に設立した。(2月18日現在 242団体が加入)

ゼロカーボンのキーワードは、「①重要性の理解」、「②現状把握」、「③対策」。

啓発セミナー等で①を行い、前述のCO₂排出量の可視化ツール等で②を行い、次に③を考えるステップで活動している。

01

重要性の理解

- 気候変動は、国際社会が抱える共通目撃現象の課題
- 国際社会におけるGHG排出削減の重要性が高まり
- 社会全体からの排出削減のプレッシャーが拡大

02

現状把握

- 目標はすでに決められている(2050年実質ゼロ)
- 目標との距離感を確認しなければ、対策のための具体的な活動計画が立てられない

03

対策

- 現状の改善の積み重ねだけでは、目標達成は難しい
- 「中期」での「抜本的削減」のための対策が必要不可欠

【ゼロカーボンのキーワード】
(出典：産業技術委員会資料)

産学官民が連携し、ゼロカーボンの取組みを大阪から具現化し、これを全国へと波及させることで、先導的な役割を果たしていきたい。
(担当：中本)